



キビチーちゃんの

献血ニュース

しょう 血漿分画センターを見学してきました!

血漿分画センターとは??

北海道にある、献血によっていただいた血液から血漿分画製剤を作るところ。

血漿分画製剤って?

血漿中のたんぱく質を抽出・精製したもの。

種類 クロスエイトM(血友病Aの患者さんに欠かせない製剤)

赤十字アルブミン(事故などで大けがした人・熱傷・肝臓病・腎臓病の治療に使われる)

日赤ポリグロビン(抗生物質などがなかなか効かない感染症の患者さんに使用される)

抗HBs人免疫グロブリン「日赤」(B型肝炎ウイルスを含む血液による針刺し事故後の発症防止・B型肝炎撲滅のための母子間感染の予防のために使用される)

製剤にするメリット 1 輸送・保管が簡便

2 有効期間=国家検定から2年 長い

全血ではなく、患者さんが必要としている成分のみ取り出すことで、無駄なく、効率よく、血液を使用することができます。



製剤があることは知っていましたが、詳しい種類までは知りませんでした。

献血者の大切な血液が無駄なく有効に使われていることを知り、より献血に協力しようと思いました。

製剤になるまでの過程

1 献血(各地の血液センター・ルーム・献血バスなど)センターへ

2 スクリーニング検査

3 NAT検査(北海道・東京・京都・福岡の4か所で実施)

ウイルスの核酸を増幅させてウイルスの有無を検出する検査
ウイルスが微量でも検出できる

4 貯留保管(6か月)

この保管期間に献血後情報や輸血副作用情報があれば、それに関係する血漿バッグは、取り除かれる。
これにより、**ウィンドウ・ペリオド**等の血漿が製造プールに入るのを未然に防止できる。

ウィンドウ・ペリオドとは?

ウイルス感染後、体内で血液中に産生される抗原や抗体の量が、従来の検査法で検出するのに十分な量になるまで数日から数十日かかるため、献血者が感染したことを検出できない期間。

一部抜き取って試験される



原料血漿の貯留保管施設

-30℃の
冷凍庫で
約150万人分
保管されている



5 受入れ検査

保管後、安全の確認された血漿は、製造タンクにプールされ、抗原、抗体の受入れ検査が行われる。

6 それぞれの工程で製造、

ウイルス不活化・除去

7 自家試験

8 国家試験

9 患者さんのもとへ



国家検定中の製剤

スクリーニング検査やNAT検査に加えて、6か月の貯留保管・自家試験・国家試験を経たことによって、より高い安全性を持った製剤を患者さんに提供できるということを知りました。これならば、安心して使用できるなと思いました。

安全性への配慮

1 扉はどこも2重扉

外とは完全に分かれている

2 検査が何回もある

3 動物実験を行っている

安全性の確認をきちんと行っている!!

全ての製剤の安全を確認するためには欠かせないことなのでしょうが、動物実験がされているということには衝撃を受けました。安全が当たり前になっていますが、安全保障のためには多くの工程があり、工夫、苦勞があります。そのことを忘れないようにしたいと感じました。



冷凍倉庫に保管
(ロボットで
積まれる)

